

54 鎮台病院跡

- ▶ 明治3年(1870)2月に創設された「大阪軍事病院」は、大阪鎮台の設置に伴いその附属となり「鎮台病院」と称しました。
「蓮如上人袈裟懸の松」を囲むように建てられました。



鎮台病院の古写真



現在の鎮台病院跡

55 定番上屋敷跡

- ▶ 徳川期、大坂城代の補佐役を務める定番(じょうばん)の上屋敷がこの辺りにありました。
定番は、城の警備に専念するもので、京橋口と玉造口に置かれ、1~2万石から選ばれ、無事務めた者は京都所司代、老中へと栄転していきます。



56 板倉勝静邸跡

- ▶ イギリス外交官 アーネスト・サトウの日記によりますと、幕末期、この辺りは老中として活躍した板倉勝静邸がありました。



板倉勝静

57 イギリス公使館跡

- ▶ アーネスト・サトウの日記には、老中 板倉勝静の屋敷だったところをイギリス公使館として使用していたとあります。場所は玉造御門を入ったすぐのところにあります。



イギリス外交官
アーネスト・サトウ

58 浅野長政の屋敷跡

- ▶ 豊臣期の頃、この辺りは浅野長政の屋敷がありました。浅野長政は秀吉と義兄弟の間柄にあり、秀吉政権で五奉行のひとりとして活躍しました。秀吉の死後は家康側につき、関ヶ原では長男幸長とともに東軍に属しました。長政の長男が幸長(よしなが)、次男が長晟(ながあきら)、三男が長重(ながしげ)。次男の長晟が広島藩の初代藩主になります。長重は笠間藩の初代藩主になり、その子長直(ながなお)が2代目を継ぎますが、赤穂藩に移封となり赤穂藩初代藩主となっています。



59 玉造御門跡

- ▶ 大坂城東南の搦手口にあたる玉造口に玉造門がありました。大手口よ同様、枅形を形成していましたが、慶応4年(1868)の大火で門はすべて焼失してしまいました。その後、陸軍により玉造門の撤去と石垣部分の変形がなされ、現在は当時の旧観は失われています。



60 桜門

- ▶ 豊臣期にはこの門の前で馬の調練が行われており、「桜の馬場」と呼ばれていました。恐らくこの辺りは桜並木があったと推測されます。豊臣期にも本丸の正門は桜門と呼ばれていましたが、徳川期の桜門は寛永3年(1626)に築られました。慶応4年(1868)の大火で焼失し、現在の門は明治20年(1887)に再築されたものです。



<内堀より内側>

61 銀明水井戸の井筒

- ▶ 徳川期、本丸御殿の下台所裏にあった(現在の旧大阪市立博物館建物北隅にあたる)井筒を、昭和6年(1931)の天守閣再建にあたって、敷石とともにそのままここに移し、飲料水井筒としたものです。(水は水道水を使用)
銀明水は、本丸内にある金明水に対してつけられた名前であるとされています。(井戸跡は旧博物館の裏側にある)



62 桜門枅形の巨石「蛸石」

- ▶ 本丸の正門を守る重要な枅形で、特に立派な巨石が使用されています。ここにも多聞櫓もありましたが、慶応4年の城中大火により焼失しました。この枅形の築造を担当したのは、岡山藩主池田忠雄で、備前産の良質な花崗岩が用いられています。
正面にある「蛸石」と呼ばれる城内第1位の巨石は、36畳敷(60㎡)、推定重量130トンもあります。左側にある「振袖石」はおおよそ33畳敷(54㎡)、推定重量120トンで城内第3位の巨石です。

